丹波古文書倶楽部会報
古文書かわら版
第12号

発行・編集者　延陽伯こと岸孝明
発行所　丹波古文書倶楽部
連絡先　090-8882-5537

事務連絡（高札場）

☆ 七月例会
日時　7月8日(土)
午前十時～
会場　柏原住民センター
会場準備(敬称略)
一色初代、小西敏晴、足立幸子

☆ 八月例会は休会、茶話会実施
日時　8月9日(水)
午前十時～
会場　柏原自治会館　3F会議室
内容　出席者間での情報交換
メインテーマ
① 私の勧める一冊の本
② 知りたい事、聞きたい事
◎ お願い！ 参加者募集中
岸連絡先(右記携帯番号)又は例会で直接お申し込み下さい。
参加〆切は8月5日(土)
参加費は一人300円です。

情報発信（読売り）

◎ 丹波古文書倶楽部会員の活躍
丹波新聞等で紹介されている我が倶楽部会員さんの活躍の一端を活動母体毎にご紹介します。

なお、連続講座については、逐次、内容等をかわら版に掲載します。

☆ 歴楽TAKEDA」
主催　竹田地区自治振興会
歴史好きが集まって、ナビゲーターが提示するテーマに添って楽しみながら懇談する自由参加形式で、「サイエンスカフェ」のように、調べている事や知りたい事をお茶を飲みながら情報交換する場も設けられている。活動の中心者が市島町史実研究会長の青木正文さん、ナビゲーター役が同会の山内順子さん
第一回は5月27日に開催され、テーマは「石像寺の雲版や半鐘と丹波地域の鋳物師たち」で、解説は山内さん、綿密な考証に参加者も大満足、後の茶話会も質問や補足発言続出、大盛り上がりでした。
次回は6月17日(土)午前10時～正午、竹田コミュニティセンター
テーマは「清薗寺の絵馬」
午後から現地見学会も予定
第三回は、9月30日(金)、以降の詳細は青木さんにお尋ねください。
参加費は一回500円、申込先は、青木さん(080-3825-7513)

☆ 歴楽TAMBA」
主催　柏原自治協議会
神戸大学特命准教授松下正和氏監修の「丹波地域歴史講座」、奇数月の第三金曜日10時半～12時
柏原自治会館(9月22日のみ「たんば黎明館」)
各回ユニークな分野の研究者が登壇、レクチャーの後、参加者によるフリートークの時間を設ける。
第一回は5月19日開催、松下先生から「古文献 錦絵に見る丹波地域の「特産品」」と題して、延喜式「主計上 廿四」に記載された丹波地域の貢納物や明治初期の錦絵「大日本物産絵図」に描かれた氷上郡の特産品「ひうち石」(柏原町上小倉？)の考察が語られ、後半は茶話会形式での参加者から質疑と先生の応答など、和気あいあい、歴史好きには楽しい時間だった。
次回は、7月21日(金)午前十時半～正午まで、柏原自治会館
講師は狛犬・地域研究者の山内順子さん、発表テーマは「丹波にオオカミが居た頃」
参加費は一回300円、申込先柏原自治協議会(0795-73-0198)

☆ 丹波市教委「歴史講座」
丹波市と神戸大学大学院人文学研究科の地域連携協定に基づく歴史資料の調査・研究成果を市民に広く周知するための歴史講座
本年度も各町住民センター持ち回りで六回開催、
11月18日(土)13時30分～15時
青垣住民センターにて、当会会員平岩泰典氏が「幕末期旗本平岩氏の家政について」と題して講演されます。費用は無料、申込不要です。
なお、この講演内容の一部は「神戸大学大学院人文研究科地域連携センター年報第8号」に掲載されています。(インターネットで検索可)

☆ いちじま史研 第61号
関　靖代会員
「高見對馬守由緒の紹介」を掲載
山内順子会員
「一宮神社本殿の彫刻について」を掲載

自己紹介（口上）

◆ 山南町　たそがれ式部（久保　小枝子様）
謎解き古文書
「遊びをせんとやうまれけむ…」
古謡にあるように、私もいつの頃からか、四苦八苦悩みごとは尽きないけれど、楽しく豊かな人生を送ろうと思い始めました。
とは言うものの、私の一番の遊びは、庭や畑で、花木や野菜を育てるというささやかなことです。他にもいろいろありますが、古文書倶楽部もその一つに数えれば語弊があるかも知れませんね。
長年続いた古典文学講座も、講師の雑学的と言っても良いような広範な知識に魅了され、古代のロマンに心を遊ばせ、仲間達と支えあい

励ましあって学び続けて行くことの喜びを、今も心に留めています。

冷泉家の時雨亭文庫で定家の日記『明月記』他、多くの古文書が公開された折、その圧倒的な量に接し、平安の王朝文化の空気が伝わってきたような感動を覚えました。

縁あって古文書倶楽部の一員に加えていただいてから約一年、木村先生が、黒板に字のくずれ過程を丁寧に解説指導してくださるお蔭で、少しずつ面白くなってきたところです。

また、古文書かわら版は、私にとっては応援歌です。経験を異にした仲間達の役に立つ情報をもっと知りたいと思います。

◆ **特別寄稿**（自己紹介を兼ねて）

春日町　岡田　康雄様

荻野輝次日記について

昨年十二月より熱中して取り組んでいる事は荻野輝次日記のコピー取り製本及び解読と整理です。

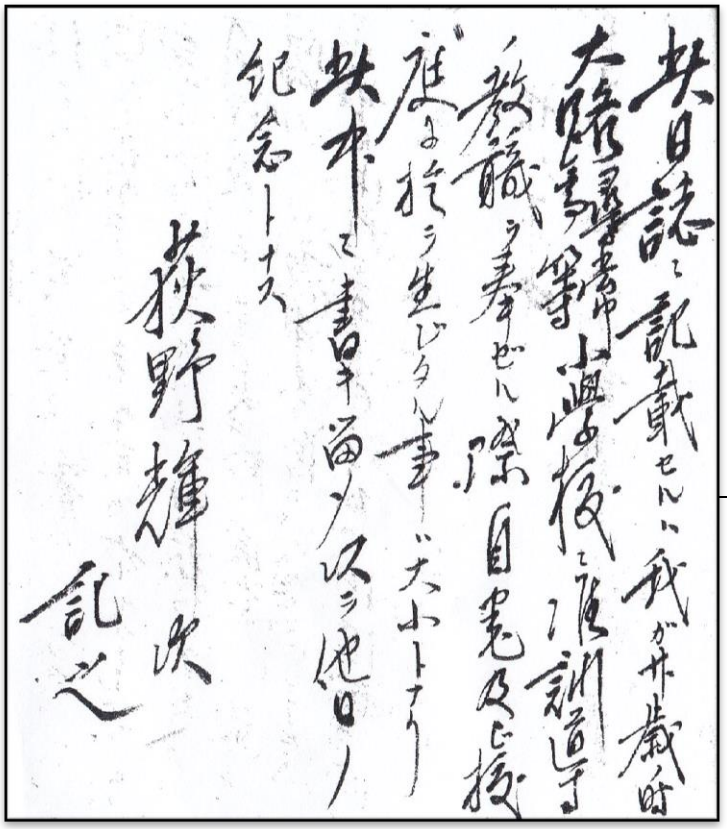
この日記については深尾須磨子の調査研究をされている一色哲八氏に見せていただいた事が始まりです。

荻野家は私の家から三〇〇ｍほど離れた所にあります。屋敷跡は田になり庭の一部と八幡宮は今もあります。春日町観光協会が建てた深尾須磨子生誕の地の石碑や須磨子の詩碑があり駐車場もあります。

ＮＨＫで春日局が放映された頃には観光ルートになり大型観光バスも立ち寄っていましたが最近では観に来る人も皆無となりさびしい限りです。

ここで荻野家について少し述べると父は荻野小次郎福秀といい郷士であった様です。輝次は第三子長男として明治九年八月一日生まれです。しげの（深尾須磨子）は第七子五女として明治二十一年十一月十八日生まれました。

さて輝次日記については明治二十七年一月一日に始まり二十八年二十九年三十年三十二年十二月三十一日まであります。途中何個所かは欠落しておりますが毎日毎日の出来事を詳細に記録しております。



明治二十八年の巻末にはこの日記についての心意気を次のように書いている（左上の資料参照）

村のこと近隣のこと神社や寺のこと

彼は大路小学校の訓導をしておりましたので学校のことなど実に詳細に書いております。

特に明治二十七年二十八年の日清戦争前後のことなど詳細に記述されており国家権力が小学校教育を通して軍国化されていく様子がみてとれるようです。

日記の文体は江戸期の古文書と現代文の中間の様な感じです

とても二十才前後の青年が書いた日記と思えない文章です百二十年後の私達が読んでも読みごたえのあるものです。

この日記は春日町棚原公民館に寄託せられ昨年九月十七日ライフピアいちじまに於て神戸大学大学院講師前田結城先生がこの日記について講演されております。

輝次日記は明治三十二年十二月三十一日で終わりそれ以降の事は何もわからない、荻野家はその後明治三十五年前後の頃に家屋敷を処分して母妹と三人で京都へ行ったと思われる。

以上

編集後記（金棒引き）

読書離れが進む昨今、ビブリオバトルと言う取組が注目をあつめています。詳しくは、http://www.bibliobattle.jp/を参照ください。

それに倣うわけではないですが、8月の茶話会では、自分が読んで面白かった本のうちで、興味ある人は是非読んでください、と他人に勧めたい本を各自一冊持参してもらい、薦める理由を手短に説明してもらいたい、と思っています。内容についての疑問点を発表してもらっても結構です。

かわら版の情報発信機能を充実させていきたいと思っています。

古文書関連だけでなく、地域の歴史や文化に関する情報を編集者までお寄せください。併せて会員個人の他団体での活動も掲載したいと思いますので奮って投稿ください。